

第23回北海道大学ーソウル大学校ジョイントシンポジウムを開催

11月5日（木）・6日（金）に、ソウル大学校（韓国）と北海道大学のジョイントシンポジウムを開催しました。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響を鑑みて、オンラインで開催することとなった今回のシンポジウムは、例年初日に開催していた全体会の代わりに『COVID-19中・後の世界における大学の役割』というテーマの下、両校の大学間協定校であるゲント大学（ベルギー）、メルボルン大学（オーストラリア）を招き、Zoomによる特別フォーラムを行いました。続いて、2日目以降に4部局から5分科会が開催されました。

特別フォーラムでは、ホスト校学長として、本学實金清博総長、ソウル大学校オ・セジョン学長からの挨拶の後、参加大学からそれぞれの大学でのCOVID-19対策と現状の紹介がありました。続いて、本学横田 篤国際担当理事・副学長から、本学のCOVID-19

対応現状と、その一環として札幌農学校同窓会による学生支援の輪と学生発信の活動について紹介があり、ソウル大学校アン・ドゥグン国際担当理事からは、首都圏大学としての政府との連動した取組の紹介やオンライン卒業式等の試みが共有されました。

ゲント大学フレデリック・デ・デッカー国際連携室長からは、ベルギーでは年始すぐに国を挙げたCOVID-19対応を迫られた反面、ゲント大学では教職員の学生支援の意欲が高く、部署を超えての枠組みができあがっている一方、次年度のオンライン・対面のブレンド型教育対応では、さらなる質保証の確保の重要性を指摘しました。

メルボルン大学マイケル・ウェズリー国際担当副学長からは、留学生受入や教職員学生の海外経験、国際共同研究・フィールドワーク、同窓生ネットワークと大学の国際的評価等、それぞれの面におけるCOVID-19の影響を

明文化し、内外で共通認識としていること、他方で、古くは黒死病後のルネッサンスにあるように、パンデミック後の人間の原動力への期待が述べられました。

ソウル大学校チャ・ソグォン国際担当副理事をモデレータとしてのパネルディスカッションでは、視聴者との質疑応答も行われ、参加大学の更なる連携への展望等が語られました。

特別フォーラムと同様にオンラインで開催された各部局主催の分科会では、工学研究院、メディア・コミュニケーション研究院、教育学研究院、歯学研究院の参加教員及び学生による活発な意見交換、情報交換が行われ、成功裏に終了しました。

第24回は令和3年秋に、本学で開催する予定です。

（国際部国際連携課）



特別フォーラムの様子（左上より時計回りに、川野辺創国際連携機構副機構長、ゲント大学デ・デッカー国際連携室長、横田理事・副学長、實金総長、ソウル大学校アン国際担当理事、オ同校学長、チャ同校国際担当副理事、メルボルン大学ウェズリー国際担当副学長）



メルボルン大学ウェズリー国際担当副学長による講演



實金総長挨拶の様子

分科会1

The 9th HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Engineering

第9回材料科学に関する合同シンポジウム／工学研究院 教授 橋本直幸

本合同シンポジウムは、ソウル大学のイ・ミョンギョ教授を窓口とし、今年度は11月6日（金）に北海道大学工学研究院材料科学部門をホストとしてリモート（Zoom）開催されました。本学・ソウル大学双方から計15名の教授・准教授に、ソウル大学・北海道大学の大学院生及び学部生30数名を加えて、計45名以上の参加者数となり、教授陣と大学院生から材料科学に関する最新の研究を紹介しました。今回の発表テーマは、構造材料、生体材料、装置開発、計算科学と幅広く、微視的な視点から詳細に精査した最新の研究が多く見受けられ、各テーマで活発かつ有意義な討論が行われました。一部の研究は、本シンポジウム後に情報交換を行う約束を交わしました。また、今回はリモート開催であるためか、例年

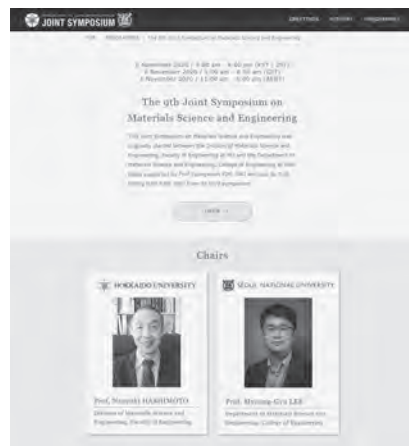
よりも参加者数が多かったように思われます。次年度は、サマースクールの開講を積極的に進める方向で一致して

おり、可能であれば学部生対象のインターンシッププログラムも進める予定です。

（工学研究院）

November 6, 2020		
Virtual Event		
Venue: Hanyang HAKSHIMOTO Professor (Graduate School of Engineering, HU)		
Chair: Professor, Dr. of Materials Science and Engineering, SNU		
Time	Program	Speaker
8:30-9:00	Opening	Prof. Naoyuki HAKSHIMOTO
9:00-10:00	Small scale and non-destructive analysis on diffusion-limited transition behavior of pure W using nano-protection and MTS simulation	Mr. Kiyoshi CHI (SNU)
10:00-10:30	Study on nano-structure and high temperature strength of Al-CuO ₂ nanocomposites	Prof. Hyeon CHA
10:30-10:45	Research on high-temperature alloy for fusion reactor application	Mr. Yun ZHANG (SNU)
10:45-10:55	Coffee Break	
10:55-11:10	Thermodynamic prediction of phase diagram for perovskite transition metal oxides	Mr. Jaehun KIM (SNU)
11:10-11:30	Analysis of R2 + L2 two-phase region in Al-Ni (K, Fe, Co, and Ni) alloys using first-principles cluster expansion method	Prof. Joo VAMMOK
11:30-11:45	Growth condition dependency of primary dendrite arm spacing on Al-Cu	Mr. Jaehoon JUNG (SNU)
11:45-11:55	Lunch	
12:00-12:30	Development of new cell detachment methods based on a cell-attached phenomenon and cell study using the method	Dr. Jaehoon PARK
12:30-12:45	Atomic-Scale Analysis of Oxygen Storage Materials Using STEM-EDS and First-Principles Calculation	Prof. Yuki KIMURA
12:45-13:15	Synthesis of the Cu-amine complex and its Hydrogen Oxidation Property	Mr. Seon ANCHONG (SNU)
13:15-13:30	Coffee Break	
13:30-13:45	Systematic study of electron-beam assisted plasma for anisotropic silica nanowire growth	Prof. Seon CHOI
13:45-14:00	Study on Cu-containing High Energy Alloys for Nuclear Fusion Application	Mr. Yuki KIM (SNU)
14:00-14:30	Thermodynamic behavior of Cu-containing FCC high energy alloys under stress conditions	Mr. Seon CHOI
14:30-14:45	Closing	Prof. Naoyuki HAKSHIMOTO

分科会プログラム



分科会情報公開

分科会2

“Workshop in the field of Nuclear Thermal-hydraulics” Joint symposium between SNU-HU 2020

原子力熱流動工学分野におけるワークショップ／工学研究院 准教授 三輪修一郎

本分科会は、原子力工学分野におけるソウル大学校と北海道大学の情報交換と交流を目的として行いました。今回で23回目を迎える合同シンポジウムですが、原子力工学分野に関わる分科会が開催されるのは2回目となります。本年度は、原子力熱流動工学（Nuclear Thermal-hydraulics）分野を対象とし、ソウル大学のチョ・ヒョンキュ准教授を窓口としてZoom開催されました。ソウル大学校から2名、北海道大学から2名の教員が参加し、原子力熱流

動の最先端のアクティビティが紹介されるとともに、学生セッションでは各校からそれぞれ4名の学生が研究発表を行いました。また、ゲスト講演として韓国原子力研究員（KAERI）のユン・ハンヨン博士に参加頂き、多次元シミュレーション技術の最先端と世界的動向についてご紹介頂きました。本セッションにおける研究テーマは従来の熱水力基礎実験に加え、多次元数値解析や、熱工学と人工知能技術の融合等、多岐に渡る研究成果が発表され、有意義な研究討議が行われまし

た。コロナ禍において多くの国際会議が延期となり、対面での交流が難しい中、英語での研究発表や質疑対応は北大生にとっても良い刺激となったようでした。

来年度は改めて北大が本シンポジウムのホストとなりますが、新型コロナウイルスが早期に収束し、より活発な研究討議が行えるよう願ってやみません。

（工学研究院）

分科会3

Reinterpreting Korean Wave in Japan: from Contemporary and Global Perspectives

日本の韓流を読み直す：同時代性及びグローバルな視点から／メディア・コミュニケーション研究院 准教授 金 成玟

本分科会は、12月11日（金）に、ソウル大学校－北海道大学合同セミナーとして開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、YouTubeでのリアルタイム配信という形をとった本セミナーは、ソウル大学校日本研究所所長の金 顕哲教授の挨拶から始まり、同研究所金 孝眞准教授と北海道大学金 成玟准教授の研究発表を主軸とし、多くの研究者、学生他視聴者の意見を受け付けました。新型コロナウイルス感染症の拡散によ

り、両国間の移動と人的交流が難しい状況が続く中、このような文化交流に関する研究が持つ学術的かつ社会的インパクトを確認する場になりました。コロナ禍かどうかに関わらず、時間的・空間的制約なしに参加し易いYouTube配信という形は、今後の分科会の新たな形と思われました。今後の持続可能な共同研究の方法についても考えていきたいとの結論に達しました。

（メディア・コミュニケーション研究院）



分科会放映風景1



分科会放映風景2



이벤트포스터

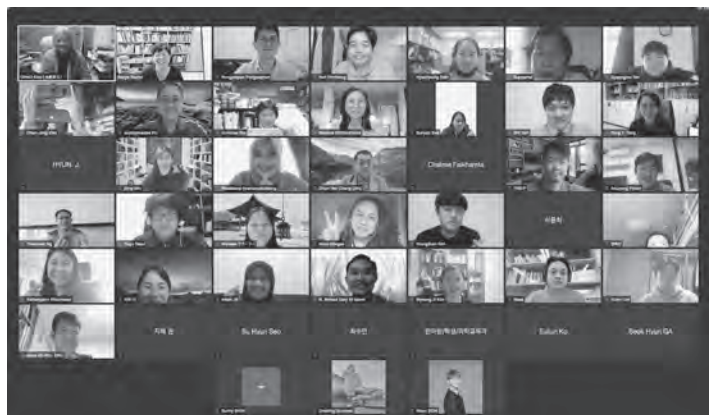
分科会4

HU-SNU-NTNU-KU 2020 joint session

Future course of HU-SNU-NTNU-KU joint symposium and research collaboration

HU-SNU-NTNU-KU 2020 ジョイントセッション

HU-SNU-NTNU-KU ジョイントシンポジウムと共同研究の将来像／教育学研究院 教授 大野栄三



Zoom版集合写真

本分科会は4つの大学が持ち回りで開催しており、2017年度はソウル国立大学（SNU）、2018年度は台湾師範大学（NTNU）、2019年度はカセサート大学（KU）が会場でした。今年度は北海道大学（HU）が会場の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえてオンラインのみの参加とし、台湾とタイとの時差を考えて、1月6日（水）、7日（木）の午後3時から午後5時30分（日本時間）に開催しました。SNUとKUからそれぞれ

10数名の学生の参加があり、1日目はSNU、KU、HUからの学生発表（4件）、2日目はSNU、NTNU、KUの学生と教員による発表（5件）と討論を実施しました。Web会議の開催でしたが、質疑応答時間に複数の質問がチャット上に同時に発せられるなど、学生の活発なやりとりがありました。2日目の最後には、ブレイクアウトルームとして、教員のみで将来像を協議するルームと学生が交流するルームを設定しました。学生たちのブレイクアウト

ルームでは、COVID-19下での各国の教育事情が話題になったようです。教員のブレイクアウトルームでは、Web会議を利用して、4大学の教育プログラムを相互に柔軟に活用するアイデアが話し合われました。具体化に向けて、検討していきたいと考えています。

（教育学研究院）



オーラル・プレゼンテーション



パラレル・ディスカッション（教員）

分科会5

Current topics of dentistry

歯学分野におけるカレントトピックス／歯学研究院長 八若保孝

1月28日（木）に、歯学としては第3回目となる分科会を開催しました。

本分科会は、ソウル大学校歯学部 of チョン・シネ准教授とライアン・ジンヨン・キム助教、本学歯学研究院の渡邊 裕准教授と坂口 究助教の計4名による研究発表が行われ、急速に進展する高齢化社会や現在直面している新

型コロナウイルス感染症の問題等に対し、歯科の分野でどのように貢献していけるかなどについて、活発な意見交換がなされました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインによる開催となり、直接往來をしての交流は叶いませ

中心に100名を超える参加があり、非常に有意義なシンポジウムとなりました。

今後も、本分科会をはじめとした両学部等の交流を継続し、教育・研究の連携をより一層進めていく計画です。

（歯学研究院）



渡邊准教授による研究発表



チョン准教授と参加者の意見交換

大学入学共通テスト業務に携わる教職員のための 未就学児一時保育を実施

本学は、ダイバーシティ研究環境推進のための取組を進めています。この取組の一環として、人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室では、1月16日（土）及び17日（日）に行われた大学入学共通テスト業務において休日出勤を行う教職員を対象に、養育する未就学児の預かり保育を実施しました。前年12月に学内周知を行い、3名

の教員（男性1名、女性2名）より申し込みがありました。

両日ともに午前7時から午後7時まで、人材育成本部会議室にて、保育士4名により、2歳から5歳までののべ4名の保育が行われました。利用者からは、保育園が休みとなる日曜日に対応していただき助かった、等の反応がありました。

2021年度も引き続き入試保育支援を実施する予定です。

部局への通知、または当ダイバーシティ研究環境推進室のWebサイトをご確認ください。

（人材育成本部）



一時保育中の様子